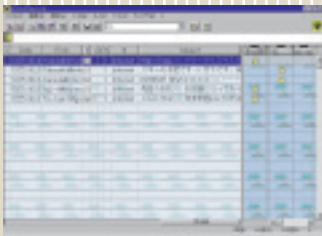


New Products Review

これは買い!?
気になる新製品をいち早くテストする!



メールをデータベースで一元管理するソフト

VisualMail Version 1.0



56K モデムを内蔵したアクセスサーバー向けTA

TS128GA-Pro

機能が充実したダイヤルアップルーターが低価格で新登場

MT128-NET/D

FAX や留守電がソフトウェアで利用できるTA

MT128B -D



パソコンなしで電子メールが使える電話

Email Phone (EPI00)

通信機能を搭載したGPS対応地図ソフト

Navin 'You Ver.1.0 (Mobile Pack)



インターネットの状態がモニタリングできるソフト

NetMedic Ver.1.2



メールをデータベースで一元管理するソフト

VisualMail Version 1.0

Check!

データベース方式でメールを一元管理
 便利な流し読み機能
 シェアウェアでバージョンアップも早い

VisualMailは、NECが97年7月に設置した研究部門「インキュベーションセンター」が市場に投入する第一弾のソフトウェアだ。販売形態はシェアウェアで、30日間は試用期間として無料で利用できるが、継続して使用する場合にはライセンスを購入する。

起動時のパスワード設定もサポート

最近では仕事とプライベートで複数のメールアドレスを使い分けている人も多いが、VisualMailでも複数アカウントはサポートされている。プライバシーにも配慮されており、VisualMailは起動時のパスワード認証を設定できるので、他人にメールを読まれる心配がない。他のメールソフトからの乗り換えについては、WeMail、Eudora Pro、Netscape Messengerのデータをインポートすることができる。データのインポートはVisualMailをインストールしたディレクトリーにある「vmuty.exe」を実行してウィザードを進めていけばOKだ。画面の背景を「やしの木」などの楽しい背景にすることもできる。現在のバージョンでは1メールを1つのファイルとして処理しているので、メールが増えてくるとハードディスクの容量を圧迫したり、動作が重くなったりすることもある。ただ、製品のウェブページではこの問題への対応が約束されているので、じきに解決されるだろう。

ファイルの添付はMIMEに準拠し、Base64、uuencode、BinHexのいずれにも対応している。また、クリッカブルURLやクリッカブルメールアドレスもサポートされているので、クリックするだけで目的のサイトにアクセスしたり、そのアドレスを宛先とするメールを作成したりできる。

試用レポート

① メールをデータベースで一元管理・分類する

すべてのメールをデータベースで一元管理するVisualMailのインターフェイスは、送受信した電子メールが整理しやすいように配慮されている。フォルダーで管理する場合にフィルタリングの設定をするのと同じように、抽出項目を設定しておけば、送受信時にメールを「トレイ」という分類テーブル上に自動分類してく

れる。どのトレイにどんなメールがあるのかが一目で分かるというのがVisualMailのコンセプトだ。メイン画面のメール一覧にはすべてのメールが表示されており、分類は画面右の「トレイ」にマーク表示される。もちろんトレイごとの表示もできる。受信したメールの差出人をアドレス帳に加えるのも簡単だ。

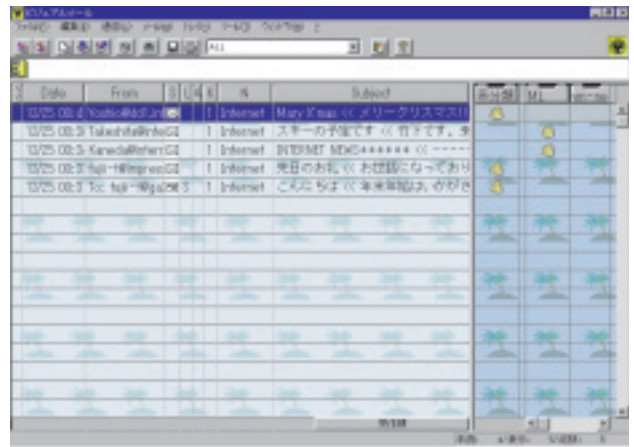
② 複数のメールの流し読みが可能

メッセージ本文の内容が表示されるプレビューウィンドウはないが、メッセージ一覧のサブジェクト欄に、メッセージの本文が少し表示されるので、いちいちメッセージをダブルクリックして立ち上げなくても、ある程度の内容はわかる。

メッセージの自動ビュー機能を使うと、表示されているメッセージを順に自動再生してくれる。スクロールが必要なメッセージは自動スク

発売元	日本電気株式会社
価格	シェアウェア4,000円(無料試用期間30日。2月末までは3,000円)
問い合わせ	visualmail@inc.cl.nec.co.jp (ソフトへの意見や要望、技術的質問) vm-regist@inc.cl.nec.co.jp (送金方法、ユーザー登録について)
動作環境	ウィンドウズ95/NT3.51/NT4.0が動作するマシン。6Mバイト以上のハードディスクの空き容量と、32Mバイト以上のメモリーが必要
URL	http://www.incx.nec.co.jp/VisualMail/

VisualMailのメイン画面。画面右は分類抽出項目として設定した「トレイ」。



ロールするので、何の操作もせずに複数のメールを読み流すことが可能だ。また、選択した複数のメールをバインドして1つにまとめることもできる。

③ 今後のバージョンアップに期待

必ずしも洗練されているとは言えないインターフェイスには、まだ改良の余地があるように思えたが、メールをデータベースで一元管理する整理法や、メールがどこに分類されているかが一目で分かる点などは評価したい。ユーザー用にメールリストも用意されているので、今後はそうした場での意見を吸い上げながら使いやすくなっていくはずだ。機能の強化が頻繁にできるのはシェアウェアの長所だといえる。コンセプトはしっかりしているだけに、今後のバージョンアップには大いに期待したい。

(編集部)

56K モデムを内蔵したアクセスサーバー向けTA

TS I28GA-Pro

Check!

ISDN、アナログ、PIAFSからアクセスが可能
ディップスイッチで着信設定が簡単
SOHO環境のアクセスポイントに最適

発売元	サン電子株式会社
価格	98,000 円
問い合わせ	0120-863810
付属品	RS-232C ケーブル、変換コネクタ、ISDN ケーブル

URL <http://www.sun-denshi.co.jp/scc/TSGAPRO.HTM>



液晶ディスプレイを搭載した横置きタイプの筐体。

前モデルのTS128GA2Mは、モデムを内蔵したTAというユニークな製品だった。そのモデム部をK56flex センtralサイトモデム(後述)にアップグレードしたのが、今回発売されたTS128GA-Proだ。PIAFSをサポートし、128K マルチリンクプロトコル(MP)対応で、デジタルとアナログのあらゆる通信形態に対応する。小規模な会社や個人向けのリモートアクセスサーバーのアクセスポイントに最適なTAだ。

K56flex センtralサイトモデム内蔵

K56flex センtralサイトモデムとは、通常クライアント側で使われるK56flex モデムとは異なり、サーバー側に置かれるモデムである。K56flex は、サーバー側に、ISDN と直接接続してアナログ信号を介さずに処理する「デジタルモデム」を使うことで信号品質を高めている。その結果として、サーバーモデムからクライアントモデムへの下り方向のデータ転送速度を56Kbps まで高速化することが可能になった。しかし、クライアントからの上り方向は33.6Kbps になる。つまり、56Kbps のアクセスポイントには、サーバー側にISDN に接続されたセンtralサイトモデムが必要なのである。

TS128GA-Pro は、このK56flex センtralサイトモデムを搭載したTA だ。これまでK56flex に対応する製品では、クライアント側のモデム製品は普及してきたものの、サーバー側に使える製品についてはプロバイダーなどで使われているアクセスサーバーなどが主流で、安いものでも数十万円はしていた。TS128GA-Pro はK56flex のサーバー側モデムとして低価格で気軽に使える初のTA なのだ。もちろん56K 以下のモデムでも接続できる。また、TS128GA-Pro から発信する場合にも、相手がK56flex のモデムの場合には56Kbps での接続が可能になる。

PIAFS、V.110、MP にも対応

TA としての機能では、PIAFS のV.42bis 圧縮をサポートしており、モバイルからのアクセスに備えることもできるほか、V.110 (非同期 38.4K)、同期 64K、BOD 機能を持つMP (128Kbps 通信) にも対応し、おおよそメジャーな通信形態をカバーしている。これ1台あれば、アナログ、ISDN 回線、PHS からのモバイル接続には対応できるのだ。

アクセスサーバー用に最適

TS128GA-Pro は主にリモートアクセスサーバー(RAS) 向けの製品で、ISDN、アナログ(56K モデムはK56flex)、PIAFS のいずれからでもアクセスできる。オフィスにTS128GA-Pro が1台あれば、いつでもどこでも外部から社内のサーバーにアクセスできるようになるだろう。最近では、このようなRAS 機能を持つダイヤルアップルーターも増えているが、低価格のダイヤルアップルーターでは得られないITA ならではの利点もある。たとえば、NTサーバーにシリアルポートでつながるTA では、NT のユーザー認証機能を使ってユーザーにログインさせることができる。これに対して、RADIUS 機能を持たないダイヤルアップルーターでは、ログインユーザー名やパスワードをルーターで管理することになり、パスワードなどが管理しにくく、ユーザー設定の頻繁な変更も面倒になってしまう。また、この場合にはNT のユーザー認証との二重管理になってしまう。セキュリティー面を考えると、そのようなルーターよりはTA を使ったほうが有利だ。またウィンドウズ95 との接続では「マイクロソフト圧縮」を利用すれば、特に圧縮効果の現われやすいテキストデータ転送などでは、実効転送速度の向上が期待できる。この点も、ルーターでは得られない利点である。また、低価格のルーターはTCP/IP しかサポートしていないものが多く、IPX やNetBEUI に対応できるものは少ない。TS128GA-Pro を使えばこれらの問題はクリアできる。

ディップスイッチで着信設定

サーバーとして使うことを考慮して、TS128GA-Pro ではアクセス自体を許可するかどうかのほかに、モデム、PIAFS、V.110(非同期) 128Kbps モードをそれぞれ許可するかどうかを設定できる。また、サーバーとの接続のDTE 速度も自動

認識、固定速度に設定できるので、いちいちATコマンドで設定しなくてもよい。この点は、UNIXをサーバーとして使うときにも便利だ。もちろん、ATコマンドで設定することも可能で、その場合にはATコマンドによる設定が優先する。

TAとしても高機能

もちろん普通のTAとしてクライアントの端末で使うことも可能だ。V.110（非同期38.4Kbps）、同期64Kbps、128Kbps、PIAFS、アナログモデムのいずれからでもインターネットなどに接続できる。どのモードで接続するかはAT\$Pコマンドで設定できるようになっているが、出荷時にはウィンドウズ用のモデム設定ファイルが付属するのでそれを使う。128Kbpsの場合にはBACPによるBOD機能が利用できる。通常はアクセスサーバーとして使うが、必要なときにはインターネットにもアクセスしたいというニーズにも応えられるわけだ。

また、本体に付属するアナログポートは1つだが、ダイヤルインやNTTのフレックスホンに対応した機能も持つ。DSUは内蔵しないが、S/T端子が2つあるため増設は容易だ。

56Kbps正式勧告への対応は？

去る2月6日、スイスのジュネーブでITU（国際電気通信連合）の会合があり、これまで「V.pcm」と呼ばれていた標準規格を「V.90」として支持することを表明した。ITUによる正式な標準勧告は9月になる見通しだが、モデムメーカー各社は正式勧告を待たずに対応製品をリリースするという。現行製品についても、「V.90」に対応するためのバージョンアップソフトウェアがリリースされる模様だ。TS128GA-Proのモデム部はロックウェル社のチップを使って設計されており、ロックウェル社が正式勧告に対応すればTS128GA-Proでも対応できる予定だ。

試用レポート

① ウィンドウズNT4.0でアクセスサーバーに

ウィンドウズNT4.0サーバーのリモートアクセスサーバーとして使ってみた。ディップスイッチの設定で着信を許可し、サーバーマシンとシリアルケーブルで接続した。テストに試用した製品が出荷前の版のため、ドライバディスク

がなく、代わりにTS64DAAの設定を流用し、DTE速度と着信設定などはディップスイッチで設定したが、特に問題はなかった。MMXベンティアム166MHzにメモリー32MバイトというマシンをNTサーバーとして使い、TS128GA-Proを接続した。クライアント側にはベンティアムPro180MHz、メモリー64Mバイトのウィンドウズ95マシンを使用し、クライアントマシンにはNECのAterm IT55を接続した。

Aterm IT55でTS128GA-ProにアクセスしNTサーバーにログインした。接続状態で、クライアント側のftpコマンドで500Kバイトのテキストファイルとバイナリーファイルのput/getを試みたが、マイクロソフト圧縮の効果が現われて、テキストではput（アップロード）時は12.5Kバイト/秒、get（ダウンロード）時は13.5Kバイト/秒と、64Kbps接続の物理限界を超える速度が得られている。バイナリーファイルでは、それぞれput（アップロード）時7.5Kバイト/秒、get（ダウンロード）時7.6Kバイト/秒となった。同様に、リプレット30とNTTのバリディオ321S（PIAFS対応PHS）の組み合わせでは、テキストではput時6.1Kバイト/秒、get時6.2Kバイト/秒、バイナリーファイルではput時3.5Kバイト/秒、get時3.3Kバイト/秒という結果になり、なかなか高いパフォーマンスが得られている。

② FreeBSDとの組み合わせ

FreeBSDでのリモートアクセスも試してみた。

/usr/sbin/pppdをttysで起動するように設定し、options、options.ttyd1ファイルを設定した。使用したのは、FreeBSD（98）2.2.2に高速シリアルボードを搭載したマシンだ。ウィンドウズ95から接続テストを行ったが、こちらもシリアルポートが115.2Kbpsまでしか対応できないこと以外は問題なく動作した。ディップスイッチ以外の設定が不要なため、UNIXでも面倒なATコマンドの設定はほとんど必要ない。実際にATコマンドで設定したのは、時刻（AT%D）とダイヤルイン番号（AT\$CB）だけだった。また、mgettyを使って接続形態によりPPPとターミナルログインを使い分けることも可能になる。LinuxやFreeBSDを個人で使う機会が増えてきている中、このようなTAの存在はありがたい。

③ ユーティリティーなどは付属せず

アナログポートの設定などを行う専用のユーティリティーは付属しないため、細かな設定はターミナルソフトなどでATコマンドを使うか、アナログポートに接続した電話機から設定する。初心者には難しい。しかし、本来このTAは、その「Pro」という名前が表すようにプロ向けのサーバー側で使うTAだ。クライアント側で使うスペックも持っているが、やはりサーバー側でこそ実力を発揮するTAだ。小規模な会社のネットワーク用、つまりSOHO環境でのリモートアクセスサーバーに最適なTAなのだ。

（梅垣まさひろ）

TS128GA-Pro

接続回線	INSネット64
サイズ(W×D×Hミリ)	155×203.5×43.8
重量	約700グラム
アナログポート数	2
S/T端子数	2
リソースBOD	
スレーブBOD	
BAC	
電池駆動	×



背面。右から、S/T端子2つ、RS-232Cポート、ISDNポート、アース端子。

データポート	
インターフェイス	RS-232C
速度変換方式	V.110準拠
通信速度	同期：64/128Kbps 非同期：1.2/2.4/4.8/9.6/19.2/38.4Kbps
PIAFS通信	
通信速度	32Kbps
データ圧縮	V.42bis
モデム通信	
通信規格	K56Flex/V.34/V.32bis/V.22bis/V.22/V21/BELL121A/BELL103
通信速度	着信のみ：56/54/52/50/48/46/44/42/40/38/36/34Kbps 発着信：33.6/31.2/28.8/26.4/24/21.6/19.2/16.8/14.4/12/9.6/7.2/4.8/2.4/1.2/0.3Kbps

開発元	オムロン株式会社
価格	67,800円
問い合わせ	0559-77-4717
付属品	RS-232Cケーブル、変換コネクタ (PC98、Mac用) モジュラーケーブル、 10BASE-Tケーブル

URL <http://www.omron-ped.com/product/ta/128net.html>



縦置きスタンドが付属するので縦置きもできる。



背面。左上より右へ、10BASE-Tポート3つ、RS-232Cポート、アナログポート2つ。左下より右へ、アース端子、U反転スイッチ、ISDNポート、終端スイッチ、S/T端子2つ。

MT128-NET/D

接続回線	INS ネット64、 高速デジタル専用線
サイズ(W×D×Hミリ)	233×158×50
重量	約890グラム
アナログポート数	2
10BASE-Tポート数	3
S/T端子数	2
リソースBOD	
スレーブBOD	
BACP	
OCNエコノミー	
高速デジタル専用線	
電池駆動	

データポート

インターフェイス	RS-232C
通信速度	同期：64/128Kbps 非同期：9.6/19.2/38.4Kbps
PIAFS通信	
通信速度	32Kbps
データ圧縮	V.42bis
10BASE-T通信(イーサネット)	
通信速度	10Mbps

機能が充実したダイヤルアップルーターが低価格で新登場

MT128-NET/D

Check!

MN128-SOHO/DSUよりも低価格
ネットワーク設定が簡単
10BASE-Tポートを3つ搭載

オムロンのMT128-NET/DはTA機能付きのISDNダイヤルアップルーターだ。もちろん128Kbpsまでの専用線やOCNエコノミー、PIAFSにも対応し、アドレス変換機能、DNSを接続先ごとに管理できるAutoDNS、DHCPサーバー機能を内蔵した高機能なルーターだ。

人気商品MN128-SOHO/DSUと同スペックで低価格

このMT128-NET/DはOEM商品で、NTT-TEのMN128-SOHO/DSUと機能的には同じだ。

2月1日現在、ファームウェアのバージョンは1.00と表示されるが、MN128-SOHOのVer1.10で導入されたPPTPの設定がないことなどから、Ver1.0xのファームと同等の機能になっていると思われる。

アドレス変換機能を使って複数のPCからインターネットに

アドレス変換機能を使えば、端末型ダイヤルアップ接続のアカウントが1つしかなくても、複数のクライアントマシンからインターネットにアクセスできる。10BASE-Tポートは3つ搭載し、使いたいときだけインターネットに自動接続して一定時間(設定可能)ネットワークを使わないと切断される。DHCPサーバー機能があるので、IPアドレスの管理もルーターでできる。人気の高いルーターMN128-SOHOと同等機能だから、機能面で問題になるところはない。

試用レポート

① クイック設定で接続

まずルーターを設定してみた。出荷時に本体には「192.168.0.1」のIPアドレスが設定してある。DHCPを使ってIPアドレスを設定していないマシンで接続する。DHCPによりIPアドレ

スが割り振られネットワークが有効になるので、ブラウザで「<http://192.168.0.1/>」を開く。すると「クイック設定」の画面が現れる。ここで、アクセスポイントの電話番号とアカウント情報を入力。通常はこれだけで設定が終わりだ。拍子抜けするほど簡単。プロバイダーによっては自動的にDNSアドレスが得られないこともあるので、その場合は詳細設定画面でDNSアドレスの設定を行う。

② 接続管理ソフト SOHOmanも動く

出荷時は自動接続(自動切断)の設定になっているが、テレホーダイの時間帯はあまり頻繁に切りたくない、またそれ以外の時間帯でもつなぎっぱなしで使ったほうがいい場合もある。そんなときに便利なのが、SOHOmanというシェアウェアだ。MN128-SOHOの接続をパソコンから管理できる便利なツールなのだが、MT128-NET/Dでも使用できる。SOHOmanは、「<http://www.raidway.or.jp/negiman/goro/goro.html>」で公開されている。

③ MT128-NET/Dは選択肢足りえるか

現時点ではファームウェアのバージョンもMN128-SOHOのほうが先に進んでいる。MN128-SOHOのファームウェアはこれまでにいくつものバグを修正してきた歴史があり、オムロンでも最新ファームウェアの動作確認ができ次第、随時最新のファームを提供していくとのことだ。ちなみに、プロテクトによりMN128-SOHOのファームウェアをMT128-NET/Dで使うことはできない。

常時接続の環境で使う場合には、細かなバグまで気になるところだが、家庭で使うダイヤルアップルーターとしては必要な機能が押さえてある。もともとかなりの低価格を実現したMN128-SOHOよりさらに安く買えるのなら「買い」といえそうだ。(梅垣まさひろ)

FAXや留守電がソフトウェアで利用できるTA

MT128B -D

Check!

付属ソフトでFAXや留守電機能が使える
35,000円を切る低価格
PIAFSはサポートしていない

オムロンのMT128B -Dは、ファックス(G3)、留守番電話などの機能を専用のソフトウェア「RVS-COM Lite」(ウィンドウズ95/NT4.0対応)で使えるTAだ。TAとしても、V.110(非同期38.4Kbpsまで)、BOD機能搭載の128Kbps接続をサポートするなど、十分なスペックを持っている。また、S/T端子とアナログポートをそれぞれ2つつ搭載し、DSUも内蔵している。

TAでファックスの送受信もOK

要注目の付属ソフト「RVS-COM Lite」は、ドイツのRVS Datentechnik社が開発し、メガソフトが日本語化した「RVS-COM」の機能限定版だ。「RVS-COM Lite」は、パソコンのマイクとスピーカーで電話をかける、ソフトウェアだけでファックス(G3)を送受信する、パソコンを留守番電話代わりにする、「RVS-COM(Lite)」を搭載したコンピュータ同士でファイルを転送できるといった機能がある。また製品版の「RVS-COM」にアップグレードすると(10,500円:税送料込み)「RVS-COM」同士でメールを送受信する機能や、定型ファックスの一括送信、OCR機能、他のパソコンを操作できるリモートコントロール機能などが利用できるようになる。

TA機能もフルスペック

データ通信部は、V.110(非同期38.4Kbps)、同期64・128Kbps、BACP機能とデータ通信には十分なスペックだ。内蔵DSUは切り離しも可能。ただし、PIAFSはサポートされていない。前面の液晶ディスプレイは、発信者番号や通話時間料金、TAの状態が表示されて便利だ。アナログ機能もフレックスホンやINSボイスワープに対応し、擬似フレックスホン機能も搭載。ひととりの機能を備える。

試用レポート

① 電話ファックス機能が便利

インストールや設定は簡単だ。設定フローピーや簡単設定ユーティリティが添付されているので、BODやアナログポートの設定などもスムーズだ。

「RVS-COM Lite」をインストールしてみた。まずは、「電話」機能から使ってみた。パソコンのスピーカーから聞こえてくる情報サービスの音声を頼りに、画面上のダイヤルボタンで欲しい情報にアクセスできた。また、パソコンのマイクとスピーカーでそのまま電話をかけて話すことも可能だ。ただし、サウンドカードで全二重のドライバーが必要になり、これはインターネット電話などを使うときと同じだ。サウンドブラスターなら最新版ドライバーを入手すれば全二重が有効になる。また、留守番電話機能も使えて、普通の留守電みたいに女性の声で留守番電話の応答メッセージが流れる。留守録された音声はサウンドファイルとして保存され、あとで聞くことができる。また、応答メッセージを作成することも可能で、時間帯によって異なる応答メッセージを流すという使い方も可能だ。

次にファックスを送受信してみた。この部分は、ウィンドウズ95では受信トレイと統合された機能として提供されるので、ファックスモデムで送受信する場合とまったく同じだ。ただ、すべての処理をソフトウェアで行うためCPUパワーが必要で、ペンティアム90MHz以上がほしい。

② ファックス用のモデムが必要なくなる

このTAを使って実感したことは、コンピュータの高速データ通信手段としてだけTAを使う時代はもう終わりだということ。パソコンとISDNの関係がさらに密接になり、電話機能を積極的にパソコン側からコントロールする時代がもうそこまで来ているようだ。ファックスの送

発売元	オムロン株式会社
価格	34,800円
問い合わせ	0559-77-4717
付属品	RS-232Cケーブル、変換コネクタ(PC98、Mac用)、モジュラーケーブル
URL	http://www.omron-ped.com/product/ta/mt128b2d.htm



受信がTAからできるようになって、ファックス用に使っていたモデムが必要なくなり、アナログポートが1つ空くことは、アナログポートが2つ~3つしかないTAを使っている場合には嬉しいはずだ。(梅垣まさひろ)



ディスプレイは見やすく、通信状況も把握しやすい。



背面。左上から右に、アース端子、極性反転スイッチ、DSUのON/OFFスイッチ、ISDNポート。左下から右に、RS-232Cポート、終端スイッチ、S/T端子2つ、アナログポート2つ。

MT128B -D

接続回線	INS ネット64
サイズ(W×D×Hミリ)	53×172×130
重量	約650グラム
アナログポート数	2
S/T端子数	2
リソースBOD	
スループットBOD	
BACP	
PIAFS通信	×
電池駆動	

データポート

インターフェイス	RS-232C
速度変換方式	V.110準拠
通信速度	同期: 64/128Kbps 非同期: 1.2/2.4/4.8/9.6/19.2/38.4Kbps

パソコンなしで電子メールが使える電話

Email Phone (EPI100)

Check!

電話機と電子メール端末が合体
WWWブラウジングはできない
メールを毎日取り込む自動受信機能

開発元	ユニデン株式会社
価格	39,800円
問い合わせ	03-5543-8720
付属品	ACアダプター、モジュラーケーブル
URL	http://www.uniden.co.jp/products/e-mail.html



ディスプレイを開かなくても電話がかけられるようなテンキーの配置にしてほしかった。

EPI100は、昨年の夏にユニデンが米国で発売し、6万台を売り上げた電子メール機能付き電話機「Eメールホン」を日本語化したものだ。電話としての基本機能に、折りたためる320×240ドットの液晶ディスプレイ、フルキーボードを搭載した新しいコンセプトの製品だ。

サンキュッパで手に入る電子メール端末

EPI100の定価は39,800円。電子メールが扱えるPDAなどを調べてみても、モデム込みでこの価格レンジのものは見当たらない。大きな320×240の液晶ディスプレイとフルキーボードを搭載し、日本語もローマ字・かな漢字変換入力でワープロ感覚で使える機能を備えている。電話だけ買っても1万～2万円するこの時代に、この価格設定は見事だ。後述するように、機能的な不満がないわけではないのだが、とにかくこの

価格で電子メールが使えることの意義は大きい。しかも、モデムも入ったオールインワンタイプだから、モデムの設定も「トーン」か「パルス」の選択だけで済む。配線も電話機をつなぐのとまったく同じだから、誰にでもできる簡単さだ。

実際の機能を見てみよう。電子メールは、パソコン通信を使ったメール機能ではなく、本格的なインターネットのPPP接続をサポートしている。接続時の認証方式はPAPとCHAPに対応しているので、ほとんどのプロバイダーで問題なく使えるはずだ。プロバイダーの設定をすれば、すぐに内蔵の14.4Kbpsモデムでダイヤルアップ接続することができる。ただしダイヤルアップ先のアクセスポイントは1か所しか設定できない。電子メールはSMTPとPOP3対応で、こちらも設定できるアカウントは1つだけだ。受信したメールは256Kバイトのメモリーに保存される。また、送信メールも同様に保存することが可能。ただし、電源コンセントを抜くと、メールがす

べて消えてしまうので注意が必要だ。

「自動受信」でメールを自動ダウンロード
自動受信の機能を利用すると、1日4回まで自動的にインターネットに接続してメールを読み出すことが可能だ。自動接続する時刻を4つまで設定しておけば、その時刻になったらインターネットに接続し、電子メールを自動的にダウンロードする。いちいちメールを読む操作をしなくても勝手にメールをチェックしてくれるのだ。扱うメールがそれほど多くなく、1回の接続が3分で済んでしまうのなら、1日1回の接続を設定しておいても10円×31日で月々310円しかかからない。もちろん、「読み出し」ボタンを押して必要なときに接続することも可能だ。新しいメールを受信すると、メールボックスのアイコンが点滅して教えてくれる。友人同士の簡単な連絡や、あまり急がないコミュニケーション、情報収集などであればこのくらいのタイムスパンで十分だろう。

アドレスブックが充実

電子メールを出したり電話をかけたりするときに使えるアドレスブックが充実している。名前が漢字で入力でき、電話番号と電子メールアドレスをそれぞれ2つずつ設定できる。ファックス番号や住所もメモできる。最大登録件数は200件まで。また、メインの画面は半分がカレンダー、半分がメモ欄になっていて、ちょっとしたメモを入力できる。

試用レポート

① 設定はPCの接続と同じ

設定項目は、プロバイダーへのダイヤルアップ接続のための電話番号、ID、パスワード、DNSアドレス、それにメールサーバー設定やメールアドレスなどだ。プロバイダーの設定資料

を見ればわかる範囲の項目だろう。迷う項目といえば、認証方式のPAPとCHAPだ。プロバイダーの資料になければ、CHAPとPAPの順に試せばどちらかにつながるはず。あまり使われないだろうが、モデムスクリプトという形でログインスクリプトを設定できるようになっているので、特殊なログインシーケンスを要求する場合でも接続ができそうだ。実際、3つのプロバイダーと接続してみたが、問題なく接続できた。

① 電子メールの送信機能

まず、メールを書いてみる。液晶ディスプレイの下部に表示されるアイコンとそのすぐ下のファンクションキーが対応しているので、メールボックスアイコンのキーを押す。すると、ファンクション表示が「作成」「削除」「読出」に変わる。「作成」をさらに押すと、画面上に「To:」と「Subject:」とそれに本文エリアが現れてメール作成の画面となった。気になったのは、「To:」や「Subject:」といった英文表記だ。確かに、電子メールを使いこなした人には何の違和感もない言葉だが、EP100ユーザーが果たしてこの意味をすぐに飲み込めるのだろうか？ いっそのこと「宛先」や「題名」などと日本語表記にしまったほうがわかりやすかったかもしれない。

次は漢字入力だ。マニュアルによると「shiftを押しながらF1」と書かれている。F1と印字されたキーはないが、キーボード上部のファンクションキーの1番目がそれに当たる。確かに、shift + F1で漢字入力モードになった。変換にはスペースキーを使う。shift + ファンクションキーには、漢字入力のオンオフ以外にも、ローマ字かな入力の切り替えや、カタカナ入力モードなどいくつかの機能が割り当てられている。ワープロ程度のレベルなので、一度覚えてしまえば何とかなるだろう。かなで入力したい場合は、キーボードに貼る「かな入力テンプレート」を使う。

メールを書き終わったら、「送信」ボタンを押すとダイヤルアップ接続が始まりメールが送信される。1通を送信するごとに接続・切断されるので、複数のメールを送信するときは接続・切断を繰り返してしまふ。できれば、自動受信機能でメール送信をまとめて処理するという方法も付けてほしかった。

① 電子メールの受信機能

メールの受信は、「読出」ボタンで行う。自動受信の時刻を設定してあるのなら、この操作も必要なく、頃合いを見てメールを読むだけで、新着メールが到着しているときは、画面のメー

ルボックスアイコンが点滅して教えてくれる。メールをあまり出すことがなく、受信が主体の使い方ならキーボード操作もあまり覚える必要がないし、ファンクションキーとカーソルキーが使えれば操作できる簡単さだ。キーボードやマウス操作が苦手な人でも、そこそこ使えるだろう。パソコンのようにいちいち立ち上げる面倒もなく、液晶画面を開けばすぐに使える。なお、モデムという制約はあるものの、ダイヤルアップ接続が遅くてモタモタしているのが気になった。この点は、現在改良中ということなので、出荷時には改良されているはずだ。また、コンセントを抜くと設定情報は消えないもののメールが全部消えてしまうのは残念だ。電話のような気軽さで使うとすると、ちょっと別の場所に移動するというのも十分に考えられる。できれば、メール本文もしばらくはバックアップして保持してほしい。

① ペンによる手書き入力がほしい

この製品は、電子メールをちょっとした連絡手段として使う場合には魅力的だろう。電話で「元気？」などと世間話をするように、電子メールをやり取りするのは確かに楽しいかもしれない。ただ、現在では電子メールの情報は、ビジネスやプライベートにおける「データ」であり、保存しておくことが必要な場合が多い。その点で、現在の電子メールは

電話よりも手紙に近いといえるだろう。ハードディスクを搭載していないことから考えても、保存が必要な重要な電子メールを扱うための製品ではなく、メールをちょっと読んで返事を出してといった使い方のための商品だ。今後、電子メールが電話のように保存を要しないコミュニケーションの一ツールになり、大人から子供まで誰でも簡単に使える時代になれば、このような製品が必要になるだろうが、現在の電子メールがパソコンでの利用が主流ということを考えると少し弱いだろう。

ただ、パソコンに比べて機能が劣るのはやむを得ず、仕事でメールを使っている人には不向きだが、メールのログを保存する必要のないプライベートなやり取りに使うのであれば、手軽に使うことができようだろう。パソコンが扱えない人を対象にするのなら、キーボード以外にも手書き認識による文字入力機能を搭載してほしい。せっかくモデム内蔵なのにファックスが送れないなど、もう少し機能アップしてくれたらと思う点もある。ファームウェアのバージョンアップができるので、機能の向上には大いに期待したい。これからの分野だけに、モデムの通信速度を上げるなどの今後の機能向上に期待したい。(梅垣まさひろ)



背面。左から、電話ポート、アナログポート、ACアダプター端子。



インターネットの設定は、コンピュータとほとんど変わらない。

通信機能を搭載したGPS対応地図ソフト

Navin 'You Ver.1.0 (Mobile Pack)

Check!

ルート情報の送信機能を搭載

GPSアンテナが付属

新しいコミュニケーションツールとして期待

発売元	ソニー株式会社
価格	54,800円(モバイルパック) 17,800円(ホームパック)
問い合わせ	03-5454-0700
動作環境	486DX4(75MHz)以上のCPUのウィンドウズ95マシンで、16Mバイト以上のメモリーと20Mバイト以上のハードディスクが必要。CD-ROMドライブとPCカードスロット

URL <http://pc.sony.co.jp/navinyou/index.htm>



Navin'You モバイルパックは、2枚のCD-ROM(「Navin'You Ver.1.0」と「CD MAP 全国版 S II」)とGPSアンテナとPCカードのパッケージだ。

ソニーのNavin'You モバイルパックは、地図ソフトにGPSアンテナを組み合わせてカーナビとしても使えるユニークな製品だ。ルート情報をファイルに保存することや、電子メールで送ることもでき、コミュニケーションツールとしても注目すべき製品に仕上がっている。

ドライブの計画から旅行の記録まで

Navin'You モバイルパックは、「Navin'You Ver.1.0」と地図ディスク「CD MAP 全国版 S II」の2枚のCD-ROMと、PCカードスロットに接続できるGPSアンテナがパッケージにされた製品だ(ホームパックにはGPSアンテナ

は同梱されていない)。GPSアンテナをノートパソコンと接続すれば、車に持ち込んだノートパソコンをカーナビとして使うことができる。PCカードとアンテナをつなぐケーブルは3.5メートルあるので、助手席でノートパソコンを操作する場合でもアンテナは好きな位置に置くことができるだろう。付属の地図ディスク以外にもナビ研規格(S、バージョン2.1/2.01)に準拠した製品なら使用できるが、製品によっては一部使えない機能もある。

ノートパソコンを車に持ち込んでドライブ中にカーナビとして使うのはもちろん、旅行やドライブの前のルートチェックや、旅行のあとの

情報整理にまで利用することができる。通信機能を使って情報交換するのも楽しいだろう。ただし安全のため、運転中はドライバー以外の同乗者が操作するようにしたい。

「ユーザーズポイント」で地図情報をカスタマイズ

コンビニやガソリンスタンド、交差点の名称、学校、公園など、表示させたいものを自由に選択することができる。また、地図上の好きなポイントを「ユーザーズポイント」として登録することができる。ドライブ中に見つけたレストランなどにタイトルを付けて、住所や電話番号、電子メールアドレス、ホームページのURLといった情報と併せて記録できるわけだ。さらに、デジタルカメラで撮影した画像も登録できるので、旅の思い出の写真のデータベースとして使うこともできる。

ATISで交通情報を取得

Navin'Youは、ATIS(Advanced Traffic Information Service: 有料)交通情報によって、渋滞や事故、工事中などの情報を地図画面上に表示させることができる。ATISを利用するにはモデムが必要で、ダイヤルQ2もしくはIDを取得して専用ダイヤルから利用することになる。ダイヤルQ2の場合は、携帯電話やPHSからでは利用できず、通話料のほかに1通話あたり50円の利用料が必要だ。専用ダイヤルを使えば携帯電話も利用できるのも、車内でATISの情報を取得しながらドライブできる。ただし、操作は同乗者に任せるか、車を停めてから行うようにしよう。

試用レポート

① 便利な「おでかけパック」

インストールにはCD-ROMドライブが必要だ。Navin' Youのインストールが終わったら、付属の地図ソフト「CD MAP全国版S」をCD-ROMドライブに入れて地図情報を読み出す。地図の操作はマウスで行うが、拡大・縮小や場所の移動スクロールもスムーズで快適だ。地図というのは情報量が非常に多く、必要な地域の地図までハードディスクにコピーするとかかなりの容量を必要とするが、Navin' Youでは必要な地域の情報だけを「おでかけパック」としてハードディスクにコピーして使うことができる。ノートパソコンで使う場合に外付けCD-ROMドライブが必要なくなり、車内で使うときなど、モバイル環境にはうれしい機能だ。

② ルート検索とシミュレーション

出発地と目的地を選択して「ルート検索」を使ってみる。経路地や回避道路を指定することもできるので、立ち寄りたい場所を経由することや、いつも渋滞する道路を避けることができる。必要事項を選択して「探索開始」をクリックすれば、Navin' Youが推奨ルートを探検して地図ウィンドウにルートを表示する。予想時間や距離も算出してくれるので、出発前にドライブの計画を立てるときの参考になるだろう。

検索されたルートのシミュレーション機能もある。これは、自車位置を中心に地図を表示するウィンドウと、交差点やインターチェンジなどの分岐点の進行方向を指示するガイダンスウィンドウでナビゲートしてくれる。さらに、音声によるガイダンス機能を搭載し、車のスピードは約40キロから120キロの間で設定できる。

③ GPSを使ってカーナビに挑戦

次にGPSアンテナを使ってみる。GPSアンテナで自車位置を把握するのだが、通常のカーナビと違って車の速度センサーなどは付いていないため、車のスピードなどは考慮されない。そのために追従が遅くなってしまうことがあった。ゆっくりと一定の速度で走っている間はそれほど気にならないが、スピードを出し始めるとどうしても追従の精度が落ちる。また、トンネル内や高いビルの間では、GPSアンテナが衛星を捉えることができなくなってしまう。やはり助手席の人が画面を見ながら使ったほうがいだろう。

地図については、常に北方向が上になっているために進行方向がつかめなくなることがあった。車内で使う場合には、車載用カーナビの地

図のように、進行方向を常に上側に表示する機能がほしかった。本格的なカーナビと比べて性能が劣るのはやむを得ないので、それよりもナビゲーション機能が付いたデジタル地図として使ったほうが楽しいだろう。

④ ユニークな通信機能はオススメ

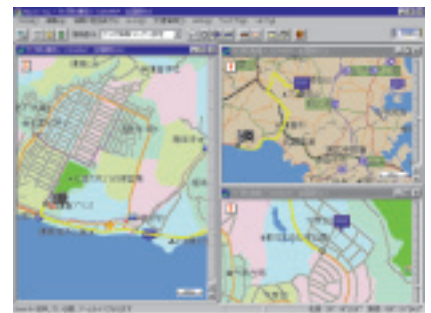
Navin' Youの最もユニークな機能は、ルート検索した情報や「ユーザーズポイント」の情報を、添付ファイル(.nyp形式)としてメールで送信できる通信機能だ。この機能を使って、旅行先や集合場所のルートファイルに関係者に送っておけば、当日目的地に行く際に迷うことはないだろう。もちろん、このファイルを見るにはNavin' Youをインストールしたコンピュータが必要だ。またNavin' Youを持っていない人にルートを教えるには「ルートマップ」機能を使おう。これは、探索したルートから交差点などの分岐点の情報だけを抜き出し、拡大図をコマ割りにレイアウトして印刷する機能だ。プリントアウトした「ルートマップ」があれば、パソコンを車に持ち込まなくてもOKだ。誰かに情報を送るときにはファックスを使えばいいだろう。

⑤ 無料配布のビューアがほしい

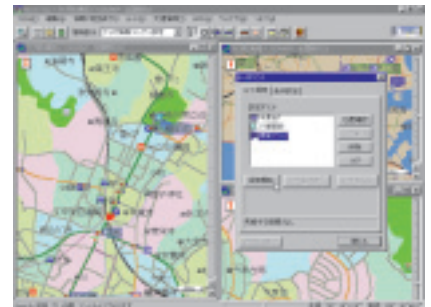
このようにユニークな通信機能を備えながら、受け手側にもNavin' Youがなければ添付ファイルを見ることができないのは残念だ。機能を限定した無料のビューアソフトの開発をぜひとも検討してもらいたい。多くの人がこのファイルを使えるようになれば、Navin' Youの通信機能の用途はより広がるものと思われる。お気に入りのドライブ情報やお店情報などの交換はもちろん、ホームページ上に自社の地図を掲載している企業や店舗なども、Navin' Youのファイルをホームページからダウンロードできるようにしておけば便利だ。道順を「高速道路を××インターで降りて、2つめの信号を右折し…」などと書かなくても済むようになる。また、定期的に「オススメのドライブコース」の案内や解説などを電子メール新聞として送り、興味のあるものはルート情報のファイルをダウンロードできるといった、ドライブ情報誌やタウン誌のようなサービスもいれかもしれない。

地図が好きな人にはもちろんオススメだ。しかし、せっかく優れた機能を搭載したのだから、今後は「地図ソフト」のジャンルを超え、新しいコミュニケーションツールとしての方向に進んでもらいたい。

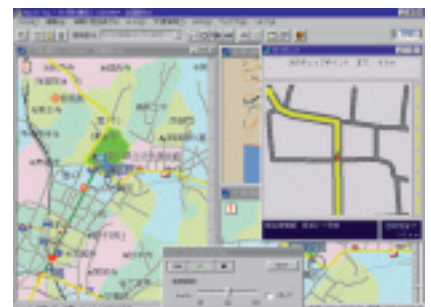
(編集部)



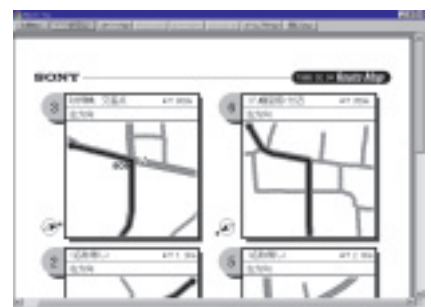
マルチウィンドウで複数の地図を表示させることができる。ズームやスクロールの操作もスムーズで快適だ。



出発地、目的地を選んで「探索開始」をクリックすればルート探索がスタート。経路地や回避道路も選べる。



探索したルートのシミュレート画面。このルート情報をファイルとして送信することができる。



ルートマップ画面を印刷すれば交差点などの分岐点で迷うことはない。画面はルートマップを拡大したところ。

開発元	VitalSigns Software, Inc.
発売元	株式会社システムソフト
価格	8,800円
問い合わせ	092-752-5264
動作環境	ウィンドウズ95/NT4.0以降のOSで、16Mバイト以上のメモリー、2Mバイト以上のハードディスク空き容量が必要。インターネットエクスプローラもしくはネットスケープナビゲーター3.x、4.x以上のWWWブラウザ。

URL <http://www.systemsoft.co.jp/PRODUCTS/vitalsigns/vitalsigns-special/index.html>

CD-ROM A 収録先
Trial Win Netmedic



インターネットの状態がモニタリングできるソフト Net Medic Ver.1.2

Check!

インターネットの接続状態がわかる
問題がある設定などを自動訂正
英語版ソフトに日本語マニュアルが付属



NetMedicのモニター画面。
アクティビティパネル スループットパネル 読み取りパネル クライアントパネル モデムパネル イン
トラネットパネル ISPパネル インターネットパネル
サーバーパネル 接続時間パネル

NetMedicはWWWブラウザ用の通信障害診断ソフトだ。通信状態をモニターしながら障害が生じたときの診断を行う。製品は英語版なのでメッセージは英語だが、英日翻訳ソフトの試用版が同梱されている。通信状態がモニタリングできるので、トラフィックが目で確認できる。

インターネットが目に見える!

NetMedicのメインのウィンドウは飛行機のcockpitのように、メーター類がズラリと並んでいる。これらのメーターやグラフがインターネットの転送状態や自分のコンピュータの状態を表示し、場合によっては適正な状態に設定してくれる。普段目にはできない情報をモニタリングできるので、ネットワークの状態を気にしていない一般ユーザーには新鮮だろう。

アクティビティパネルにはコンピュータからウェブサーバーまでの経路が描かれ、コンピュータとサーバーの間は経由するルーター数の点で結ばれている。サーバーのアイコンを選んで「Identify」をメニューで選ぶとNICに登録した情報が参照できるが、英語版なので日本語は表示されない。アクセス中は、ファイルがサーバーからパソコンに飛んでくるアニメーションと文字でトラフィックを表示する。

スループットパネルでは、帯域幅とネットワークのデータ転送速度をKbps単位で表示する。モデムのデータ圧縮がかかって物理的なデータ速度を上回るスループットがあると、グラフやゲージの先端が白色で表示される。

読み取りパネルには現在のページの読み取りに関する情報が表示される。読み取りやネットワークの処理などにかかった時間が表示され、平均転送速度(Kbps)がわかる。

クライアントパネルはクライアント側の状態を把握する部分だ。コンピュータの状態を緑黄赤

で示したり、CPUの使用率を示したりできる。

モデムパネル、イントラネットパネル、ISP(インターネットサービスプロバイダー)パネル、インターネットパネル、サーバーパネルからは、それぞれに起因する遅延の推定値チャートや接続速度などが表示される。

接続時間パネルは、モデムとLAN接続用があり、セッション時間、1日の合計接続時間、1か月の合計時間が表示される。

試用レポート

❗ やっぱり日本語版がほしい

インストールはインストーラーの指示に従えば簡単に終了する。表示する情報(メーターなど)はカスタマイズできるので、必要なものだけ表示させることができる。「View」メニューで「Open All」を選択するとすべての情報が表示され、その情報の多さに驚かされる。

NetMedicは情報を表示するだけでなく、通信障害を感知したときは、状況を診断して処置方法を提案してくれる。自分のコンピュータのDTE速度の設定が低すぎる場合に自動で適切な設定に直してくれるなど、障害によっては自動治療モードで対処できる。インターネットのネットワークのトラブルを確認したり、日常の状況を確認する目安としては十分な情報量だ。さらに、細かな情報を視覚的に見せてくれるNetMedicはトラブル時のよきアドバイザーになるだろう。次期バージョンでは、ぜひソフトウェアの日本語化を実現してもらいたい。なお、本誌付録CD-ROMに体験版を収録しているので、興味のある方は試していただきたい。一度使えば、それを機にネットワークの状態についても気を配るようになるかもしれない。

(菊地宏明)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp